



取組概要

- 民生委員や地域コミュニティ振興会、一般公募など、地域の女性を広く募集して講座を実施
- 講座修了者に声をかけてワークショップを実施し、避難所運営マニュアルを改定

取組のきっかけ 『マニュアルの改定時に女性の視点を取り入れたい！』

これまでに作成していた避難所運営マニュアルには、男女共同参画や要配慮者等の視点が欠けていたり、自主防災の担い手の多くは男性で、女性は手伝いという意識が根強かった……



熊本地震等の教訓をもとに全国で取り組まれた要配慮者への対応を参考に、市の避難所運営マニュアルを改定することに。



避難所運営に女性の視点を取り入れたいと考え、
令和3年度からの新事業として、女性の地域防災リーダーの育成を開始。



育成した女性の防災リーダーとのワークショップを通じて女性視点での避難所運営を検討して、年度の最終目標としてマニュアル改定まで目指そう！



1 地域の女性たちが防災の知識を高めて、マニュアル改定に参画！

女性防災リーダー育成講座

1. 民生委員や地域コミュニティ振興会、一般公募など、幅広く地域の女性を巻き込む！
2. 防災の基本から女性の視点まで、防災や避難所運営に女性も積極的に参画することの大切さを学んだ

さらにいいこと！



身のまわりにどのような危険があるかを知ることで、女性の視点による地域防災の課題の発見・発信までステップアップ！



2. 講座の修了者から、マニュアル改定のためのワークショップへの参加を募った！

こんないいことがあった！



防災の基礎から学び、知識を高めた女性たちに参加いただき、マニュアルに対する意見を引き出せた！



避難所運営マニュアル見直しに向けたワークショップ

3. 宿題として、事前に自分の意見を書き出してもらった
4. グループごとに避難所運営の活動内容を割り振り、全体で1冊のマニュアルを検討した

こんないいことがあった！



短い時間で、マニュアル全体の確認ができた！

研修の学びが自信につながる！

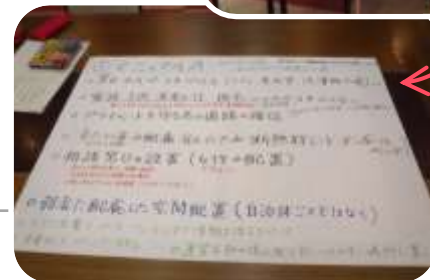


4. ワークショップ後に、アンケートで個別に意見を募集した

これをやったらうまくいった！



グループワークで出しきれなかった個人の意見も漏れなく集めた！



2 地域で活躍する女性とつながり、研修の企画から計画の修正まで連携！

講座・ワークショップの企画

1. 講座やワークショップの講師は、市が指導を受けていた大学の専門家や、県の自主防災アドバイザーを探し、依頼した
2. 引き受けてくれた講師に、女性の視点からの防災・災害対応が大切だという市としての思いを伝えるとともに、取組の計画について相談し、助言を受けた

こんないいことがあった！

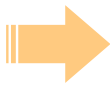


依頼した講座やワークショップの講師としての関係だけでなく、マニュアルの改定における全過程で熱心に関わっていただけました！



2. 地域で活動する女性の防災士に市の取組を理解し、共感してもらえよう、企画の内容や現状の課題について共有した

こんないいことがあった！



地域で活動する女性の防災士を取組に巻き込み、講座の運営などで協働することができた！

<p>【1】男女が共同で運営する避難所</p> <p>これまでの避難所運営の担い手は男性が多かったため、女性のニーズが反映されず、不便を強いられることがありました。本市は、女性が避難所運営に参画することによって、女性のニーズが反映される避難所を目指します。</p>	<p>【2】全員が支援を受けられる避難所</p> <p>避難所では、高齢者や障がい者などの要配慮者や、言語に不安を持つ外国人、そして在宅避難者や車中泊避難者など、様々な方への支援が必要になります。本市は、全ての人が必要な支援を受けられる避難所を目指します。</p>
<p>【3】清潔で衛生的な避難所</p> <p>災害関連死の大きな原因は、不衛生な避難所環境です。また、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、避難所を清潔で衛生的に保つことが重要です。本市は、清潔で衛生的な避難所を目指します。</p>	<p>【4】ペットと一緒に逃げられる避難所</p> <p>ペットを家族の一員として共に暮らす方が増えている今、災害時にペットをどう飼育するかが重要な問題となっています。本市は、ペット連れの方も安心して避難することができるよう避難所を目指します。</p>

ワークショップの意見集約

3. マニュアルに反映させる意見を選定するためのオンライン会議を実施した
4. 講師に修正の状況を報告し、随時確認してもらう作業を繰り返した

これをやったらうまくいった！



オンライン会議の結果を踏まえて、ワークショップで集めた意見を避難所運営マニュアルに反映できた！

できるだけ多くの意見を反映！



4. 改定したマニュアルのポイントや修正箇所をとりまとめた説明資料を作成した

こんないいことがあった！



避難所運営に関する話し合いの場で、自治会や地域の男性のリーダーに対して、避難所運営マニュアルの改定や、市が目指す避難所像について説明できた！

 **取組概要**

- 防災担当、福祉担当、男女共同参画担当、社会教育担当の4部署が連携して、男女共同参画の視点からの防災に関する住民向け研修を実施

取組のきっかけ 『男女共同参画・福祉・防災の各取組を普及させたい！』

「男女共同参画」「福祉」「防災」の取組を進める上で、それぞれの担当が単独で取組を実施しても思うように進まなかった……



防災担当と福祉担当の女性職員が、県主催の市町村職員と住民向け防災研修を受講。研修の中で、男女共同参画の視点からの防災の重要性について学んだ。



防災担当、福祉担当、男女共同参画担当、社会教育担当の4部署の担当で研修での学びを共有し、4部署が連携して住民向けの研修を実施することに。



複数の部署が連携する仕組みをつくり、それぞれの取組を普及させることを目指そう！



1 4部署の連携による研修でそれぞれの取組を普及し、業務負担も軽減！

研修の準備

- 4つの各部署の**普段の業務や得意分野などを考慮**し、役割分担を行った
 - 庁内のオンラインコミュニケーションツールを活用し、進捗状況をこまめに書き込み**ながら、各担当で準備を進めた

こんな
いいことが
あった！



準備や調整、当日の運営などを複数の課で分担することで、**研修準備の負担を軽減**することができた！



研修の実施

- 防災担当、福祉担当、男女共同参画担当、社会教育担当の各部署で連携**し、研修を実施した

こんな
いいことが
あった！



福祉や防災などの身近な分野と組み合わせることで、男女共同参画に関する**住民の理解も得やす**くなった！



- これまでの防災研修では、自治会や自主防災組織のリーダーたちを対象としており、**参加対象者のほとんどが男性だったが、対象者範囲を一般住民**にまで広げた

こんな
いいことが
あった！



住民が広く参加できるようになり、リーダーの男性に限らず、**女性や子どもも参加**できるようになった！

多様な世代・性別・立場の人が参加！



- 子どもも一緒に参加**できるようにし、**出入り自由**な参加方式とした
 - 会場のロビーに**防災グッズを展示**したり、**スタンプラリー**を用意したりした

こんな
いいことが
あった！



子どもも一緒に参加しやすい空気をつくることで、**子どもや子育て世代**に対し防災への参画促進や女性の視点を入れることへの理解を促す機会になった！

 **取組概要**

- 外郭団体が主催していた住民向けの女性視点の研修をもとに、ダイバーシティ推進センターと防災・危機管理課が共催で研修を実施し、市町村職員も対象に追加

取組のきっかけ 『研修で、市町村職員の多様な視点への理解を広げたい！』

以前から男女共同参画の視点からの防災研修会は実施されていたが、一般県民を対象として外郭団体が主催していたため、市町村職員が業務として参加することは難しかった……

↓

組織改編により、知事部局にダイバーシティ推進センターが設置されたため、市町村の担当課長宛に県から直接通知を発出できるように。



ダイバーシティ推進センターと防災・危機管理課が共催で研修を実施し、女性をはじめ多様な視点を踏まえた防災対策について説明。

↓

研修を通じて、より多くの方々が多様な視点を理解して防災対策に取り組めることを目指そう！



1 既存の住民向け研修をグレードアップし、市町村職員も参加できる環境に！

防災研修会

1. **ダイバーシティ推進センターが研修の案を作成**し、防災・危機管理課と連携しながら研修の準備を進めた

こんな
いいことが
あった！



2. **研修の対象を広げ**、一般県民に加えて、市町村の男女共同参画担当職員、防災担当職員、保健師にも参加してもらうようにした
- 県の**ダイバーシティ推進センターと防災・危機管理課から、市町村の担当課長宛に直接通知**を出した

こんな
いいことが
あった！



3. 講演後、**市町村の男女共同参画担当と防災担当などが**、研修の感想や今後の展望について**意見交換できる時間**をつくっている

こんな
いいことが
あった！



4. 「女性の視点を取り入れた防災対策」を基本として、更に**多様な視点へと広げる**など、毎年内容を変えながらグレードアップしている

こんな
いいことが
あった！



防災・危機管理課と連携し、多様な女性の視点に立った防災対策が重要であるという**県の認識を**広められた！

市町村職員が**業務として研修に参加**できるようになり、参加率が上がった！

参加者の興味を惹きつけられる講師を選定！



市町村内の顔の見える関係づくりのきっかけになった！

アンケート結果によると、**多様な視点を取り入れた防災対策の重要性や、市町村内の横の連携の必要性**について理解を促進できている！

 取組概要

- 庁内各課の職員と市民と一緒に地域防災計画を検討する「地域防災計画改定検討委員会」を設置
- 女性の視点を盛り込むために委員にできる限り女性を選出するよう要請し、委員全体の6割以上を女性にすることを実現

取組のきっかけ 『職員も住民も当事者意識を持てる計画に改定したい！』

令和元年東日本台風(令和元年10月台風19号)の災害対応で混乱が生じたことをきっかけに、気象防災アドバイザーが市長から指示を受け、地域防災計画を大幅に改定することに。

↓

計画の内容を確認すると、防災関係の部署だけで作成しているような印象を受け、男女共同参画や要配慮者の視点が欠けていた……



全職員と地域住民が当事者意識を持って災害対応に取り組めるようにするため、市が一体となって防災を考える仕組み「地域防災計画改定検討委員会」を発足。

↓

要配慮者や男女共同参画の視点からも地域防災計画の内容を確認し、より実効性のある地域防災計画への改定を目指そう！



1 職員と市民と一緒に検討する仕組みをつくり、多くの女性が参画！

委員の選出

1. 庁内各課から1名ずつ選出してもらい、自治会や市が養成した自主防災リーダーなどの市民も加わり、**市全体で防災について検討する仕組み**を作った

こんないいことがあった！



2. 各課からメンバーを選出してもらう際、**防災における女性参画の必要性を全庁的に共有した上で、できる限り女性を選出するよう求めた**
- 地域に委員を選出してもらう際にも、**半数は女性を選出するよう要請した**

こんないいことがあった！



キックオフミーティング

3. 過去の災害事例を基に、**「災害時には要配慮者や女性などへ被害のしわ寄せがいく傾向が強い」**ことなどを伝えた

これをやったらうまくいった！



4. 災害時の事務分掌が近い組織ごとに、**1)運営部会(本部、応急対策):総務部等**
2)避難・避難所部会:福祉部、教育部等
3)復旧部会:建設交通部、上下水道局等の3部会に分かれて検討した

こんないいことがあった！



被災経験が少ない中で、**全庁的に市民の命を守る防災意識を持つ環境**をつくれた！



委員全体の6割以上が**女性**になった！

地域の実情を踏まえて検討！



要配慮者や男女共同参画の視点から**市の地域防災計画の内容を確認して、改定の必要性を訴えた！**

キックオフで意識を統一！



各部署・各組織の代表者として意見を出すことで、**参加者の意識が変わり、防災が自分事**になってきた！

2 災害の段階ごとの部会に分かれて検討し、委員自身の防災意識も向上！

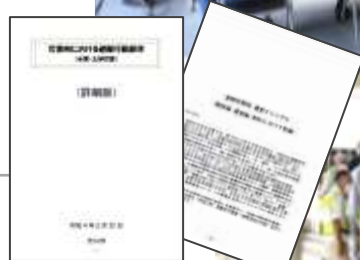
3部会による検討

1. **部会ごとに4回の検討**を進めた
 【1回目】課題出し
 【2回目】1回目の結果を基に計画の修正箇所の検討
 【3回目】対策の検討
 【4回目】計画の修正内容について合意形成、改定完了

こんな
いいことが
あった！



「万が一の事態が
起こったときは、
みんなで命を守ろう」
という共通認識を
もって話し合いを
進められた！



女性も意見を
言いやすい環境に！

計画の附則にあるマニュアル

2. 検討中に出された、
「地域防災計画は分厚く、
災害の時間軸で書かれていない」
「その取組がなぜ必要なのかを
書き込んだものが必要ではないか」
といった意見から、**マニュアルを作成**した

さらに
いいこと！



作成した計画を
より実効性のあるものに
するため、**訓練を行いながら
内容を検証**した！

更に実効性を高めるための取組

～市内全自治会で
避難タイムラインの作成(4年計画)～

3. 意見を出しやすい環境づくりや、
議論の論点がぶれないようにする
ために、**ファシリテーターを配置**した

これをやったら
うまかった！



検討前にファシリテーター
向けの研修を実施して
ポイントや考え方などに
対する認識を共有した
ことで、グループ検討を
適切に進めることができた！



 取組概要

- 「女性の視点からみる防災人材の育成検討会議」の報告を受け、「防災ウーマンセミナー」と「防災コーディネーター研修」の2段階で、職場編と地域生活編の2つの切り口から研修を実施
- 育成したコーディネーターを区市町村等に紹介し、活躍の場を提供



取組のきっかけ 『地域や職場の防災活動に女性の視点を反映したい！』

過去の災害時に、避難所運営等の意思決定の場に女性が少ないために女性の声が届きにくく、女性の視点を踏まえた取組が不十分だったという指摘があり、東京都でも同様の課題があった……

「女性の視点からみる防災人材の育成検討会議」を実施し、女性のニーズにきめ細かく対応するために防災活動に女性の視点を反映できる防災リーダーの育成について検討。



人材の裾野を広げるための事業(基礎編)とリーダー的人材を育成する事業(応用編)として、防災ウーマンセミナーと防災コーディネーター研修の2段階で研修を実施することに。

育成した防災コーディネーターを区市町村等に紹介し、活躍の場を広げていくことを目指そう！



1 知識に合わせた2段構成の研修で、職場と地域をけん引する人材を育成！

防災ウーマンセミナー

1. 初めて防災に取り組む人でも **基礎的な知識を身につけられる研修**を実施している
2. **東京都のホームページ**や「**東京都防災アプリ**」、**チラシ**や**ポスター**にて告知している
 - 多様なライフスタイルを考慮して**オンライン**で、**人数の上限は設けず**に実施している

こんな
いいことが
あった！



こんな
いいことが
あった！



防災コーディネーター研修

3. 「**職場編**」と「**地域生活編**」の2つの切り口に分けて実施している
 - 職場編では**発災時職場に留まるための備え**、地域生活編では**避難所運営**などをカリキュラムに組み込んでいる
4. **事前学習**と**研修当日のワークショップ**（**演習**）によって構成している
 - カリキュラムを作成する際には、**受講者がより意見を出しやすくなるように意識**している

こんな
いいことが
あった！



こんな
いいことが
あった！



基本知識を身につけた上で、**防災コーディネーター研修を受講**できるようになっている！

受講や周知の方法を工夫し、**より多くの女性が参加しやすくなった！**

職場と地域のそれぞれの場で、**女性視点の防災をけん引**できる人材を育成できている！

受講者同士で意見を出し合うことで、**コミュニケーション能力が身につく**ようになった！
受講者の持つ**グッドプラクティス**を共有できる！



2 育成したコーディネーターの区市町村等への紹介や、スキルアップの支援で研修後の活躍を後押し！

区市町村等へコーディネーターを紹介

- 1 都のホームページ上で、**区市町村別にコーディネーターの人数を公表し**、活用を促している

こんな
いいことが
あった！



ステップアップ研修

- 2 **防災コーディネーター研修の過去の受講者を対象に**、更に知識を深められるステップアップ研修を実施している
 - 有識者に協力いただきながら、**毎年テーマを変えて**実施している
 - オンライン研修後は、**自由参加の「交流会」**を実施し、講師と受講者が意見交換、情報共有などを行っている

こんな
いいことが
あった！



区市町村の広報紙などで
防災コーディネーター研修の修了生が
紹介されることにつながった！

広報紙で紹介されることで、自治会・町内会
などの**男性のリーダー**に活動が知られ、
防災活動の**声がかか**るようになった！

区市町村の男女共同参画課
ホームページでインタビュー
を掲載されたことも！



防災コーディネーター研修を修了した
コーディネーター同士の
人的つながりを広げる
機会になった！



 取組概要

- 市町村職員向け研修を2部構成で実施
- 第1部で内閣府のガイドラインと実践的学習プログラムを活用
- 第2部で「清流の国ぎふ防災・減災センター」として岐阜大学と協働で育成した人材のうち、地域で活躍している女性を紹介

取組のきっかけ 『県だけでなく、県内市町村の意識も底上げしたい！』

以前から、県で独自に作成していた避難所運営ガイドラインに女性の視点を含めるため、男女共同参画・女性の活躍推進課と防災課が連携していた。

内閣府男女共同参画局のガイドラインが公表されたことを機に、男女共同参画・女性の活躍推進課と防災課の両部署から、お互いに「何かしますか？」と声をかけ合い、研修をやることに。



男女共同参画・女性の活躍推進課と防災課が共同して
市町村職員向け研修会を開催＋地域で活躍する女性の防災リーダーを紹介。

県だけでなく、県内市町村の意識も高めていくことを目指そう！



1 内閣府資料と地域で活躍する女性を紹介し、参加者の理解を促進!

第1部:内閣府ガイドラインの説明

- 内閣府男女共同参画局のガイドラインを説明している
 - 毎年やり方を工夫しながら、短い時間で市町村職員のやる気を引き出せるような手法を模索している
- 【1年目】内閣府男女共同参画局にオンライン講義を依頼
- 【2年目】防災課職員が講師となり、内閣府男女共同参画局の『実践的学習プログラム』を活用
- 【3年目】内閣府男女共同参画局に講義を依頼

こんな
いいことが
あった!



第2部:地域で活躍する女性の紹介

- 地域で活躍している女性の防災リーダーを紹介し、話をしていた
- 県と岐阜大学が協働で防災の人材育成を行う「清流の国ぎふ防災・減災センター げんさい未来塾」の卒業生の中から、活躍している女性を選定している

こんな
いいことが
あった!

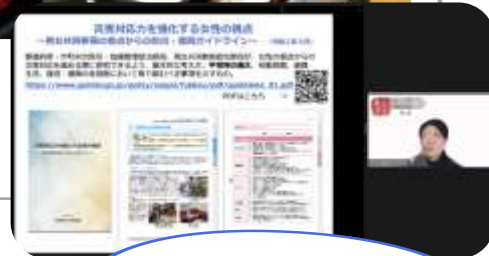
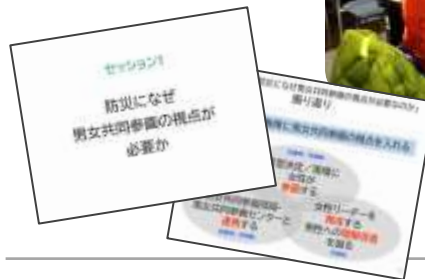


こんな
いいことが
あった!



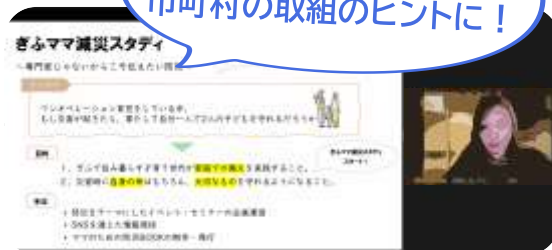
研修のはじめに基礎的な知識や概要を学ぶことで、第2部の内容を理解しやすくなった!

短時間の研修で
市町村の負担を
減らす!



実際の活動の話が聞けるため、地域の具体的な取組を知る機会となった!

地域での活動を知り、
市町村の取組のヒントに!



県と大学が協働で育成した女性の防災人材に、研修で活躍していただいている!

2 大学と連携して人材を育成し、卒業後の活動を後押し！

防災活動大賞

- 県と岐阜大学が協働し、**防災の人材を育成**する「げんさい未来塾」を実施している
 - 県内の様々な立場で取り組まれている防災活動を募集し、年1回、特に優れた取組を「**防災活動大賞**」として**選出**している

こんな
いいことが
あった！



好事例を横展開することで、**地域の防災力アップのための参考**になっている！



卒業生
活動リスト▶



スキルアップと
つながりづくり
がポイント！

- 受賞者には、**市町村職員向け研修会や防災イベント**等で取組をお話いただいている
 - ポータルサイト**(男女共同参画・女性の活躍推進課が運営)で、市町村研修で話してもらった女性の防災リーダーを県内で活躍するロールモデルとして登録し、活動内容を紹介している

さらに
いいこと！



受賞者が活躍できる場を提供することで、**次の活動へと展開し始めている！**



▲ 防災活動大賞の公開選考会

モチベーション
アップにも！



防災活動大賞▶

✍️ 取組概要

- 女性の消防団員の募集に力を入れ、実際に活躍する女性にスポットを当てたPR動画などで女性の参画を促進



取組のきっかけ 『女性団員が当たり前前に活躍できる消防団にしたい！』

以前は消火活動など男性団員と同じ活動での募集だったことや、女性が活動するための環境が整えられていなかったこともあり、女性団員はほとんどいなかった……

平成25年の法改正を機に「浜松市消防団のあり方検討会」にて団の方向性について議論した結果、新たな消防団員への資機材の使い方などの指導や、地域住民への防災教育を行う「教育隊」を設置することに。



教育隊の中でも、主に応急救護の指導や災害時の負傷者の手当等の役割を担う「応急救護指導部」が発足し、女性の加入のきっかけに。

実際に消防団員として活躍する女性たちの声を取り入れながら、PR動画等で活動を広め、女性も活動しやすい消防団を目指そう！



1 アンケートや広報の効果を分析し、女性団員にスポットを当てた動画で女性の参画を促進！

プロモーション事業

- 効果的なプロモーションの方法を探るため、市が**無作為のWebアンケート調査**を行った
アンケートの結果、女性の関心が高かったことを踏まえ、現在活躍する**女性団員にスポットを当てた動画やWeb広告**を作成し、広報している
- 動画を作成するにあたり、**実際に活躍している女性消防団員にヒアリング**を行った
入団のきっかけや**実際の活動**などの話を伺い、動画に反映した

こんな
いいことが
あった！



Webアンケートの実施により消防団の活動に興味を持っている女性が多いことを**客観的データ**で示せ、女性の加入促進や活躍の推進につながった！



こんな
いいことが
あった！



実際に活躍する女性の意見を聞き、**男性だけでは分からなかった視点**に気づいたり、**思い込みを解消**したりする機会となった！

女性の声が届きやすくなった！



コラム

女性団員による主体的な活動



教育隊では、消防団員に対する応急手当の教育や地域住民に対する訓練指導、子どもたちへの防災教育などを実施しており、その中で、女性団員が独自のアイデアを持ち寄りながら、主体的に活動をしています。今後は、消防資機材の軽量化をはかるなど、女性団員による活動の幅を広げていきたいと考えています。

 取組概要

- 「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」の実施結果を踏まえ、災害時に職員の子どもの一時預かり場所の設置を検討
- 訓練を実施して改善点を見つけることで、実効性のある制度に向けて更に検討を重ねている

取組のきっかけ 『災害時に女性が参画しやすい環境をつくりたい！』

当時、平成28年熊本地震の被災地に派遣された職員が、被災地で多くの女性職員が発災直後に託児所等がなく、育児・介護などを理由に参集できず、その後、長期間労働ができないことを苦に退職した、という実態を目の当たりにした。

豊橋市で災害が発生した場合にも、職員が不足するかもしれない……



災害対応に女性も参画しやすい環境づくりを検討するため、
「防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会」を発足。

災害時に、女性職員もすぐに職場に来られ、安心して働ける環境を目指そう！



1 被災地へ派遣された職員の経験から、女性の視点での検討会を立ち上げ！

防災に女性の参加と目線を取り入れる検討会

- 1 • 検討会を立ち上げる前に、防災危機管理課から、被災地に派遣された職員に対して、男女問わず聞き取りを行った
- これをやったろうまくいった！

- 2 • 委員の人選は、防災危機管理課と人事課が協議し、各課に検討会の趣旨を伝えたうえで、最適な職員の推薦を依頼した
- こんないいことがあった！

- どの課の職員が入るとよい事例が出てくるかなどかを考えて委員を選び、外国人や子ども、健康に関わる部署の女性職員が加わった

- 3 • 1年目は女性職員のみで検討していたが、2年目以降は、女性防火クラブや地域包括支援センターなどの地域の女性や男性職員も委員に加わった
- こんないいことがあった！

- 4 • 2年ごとにテーマを変えて、4年間にわたって検討会を行った
- 災害時にすぐに参集し、安心して働ける環境をつくるため、1年目には緊急参集支援の方向性について検討した
- こんないいことがあった！

実際に被災地に派遣された職員の経験や思いを踏まえて検討会が発足された！

被災地での経験を活かして活動！



被災地でのボランティア経験がある職員や、日ごろから防災への関心の高い職員などが集まった！



メンバーを入れ替えながら、毎年異なる視点から議論できた！

要望のあった後、具体的な検討につながっています！

災害対応の際に利用できる託児所の設置の要望や、レスパイト支援、要配慮者の非常持ち出し品の検討などにつながった！



2 平常時の資源を活用し、災害対応にあたる職員用の託児所を設置！

子ども一時預かり場所の設置

1. 災害時に職員が安心して災害対応に取り組めるようにするため、検討会から **子どもの一時預かり場所の運用を検討するよう要望**した
- こんないいことがあった！

予算や人員などの具体的な検討につながった！

畳やマットを敷いて託児スペースに！

2. **本庁舎内の職員を対象**にして、**庁舎内に託児所**を設ける運用とした
- これをやったらうまくいった！

本庁舎の職員向け設備として人員確保などを行い、**まずはやってみることができた！**

3. 育児休業中の職員が来庁した際に利用できるように、庁舎内の職員向け休憩スペースに畳やマットを敷いて **託児スペース**をつくった
- さらにいいこと！
- **災害時にもこのスペースを活用**することにした

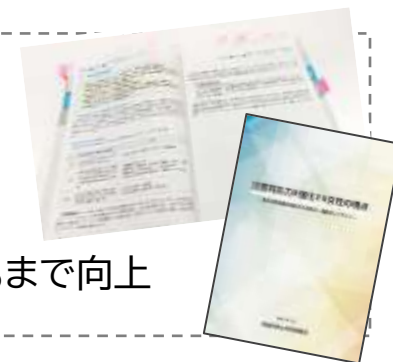
日ごろから使われている託児スペースを災害時にも有効活用することで費用を抑えられた！

長時間の預かりや庁内完結型の制度など、引き続き検討！

4. 市役所内のイベントの際に託児を依頼していた**外郭団体(NPO法人など)**と協定を結び、**毎年防災訓練の際に、一時預かり場所の開設訓練も実施**している
- さらにいいこと！
- 訓練には、市長や管理職等の**トップたちも参加**した

訓練後の振り返りを通じて、「(外郭団体の方が発災直後にかけつけられない可能性も踏まえ)市の保育士の職員等も託児に加わっていただくべきではないか」などといった、今後の取組に向けた課題を明らかにできた！





✍️ 取組概要

- 防災部局と男女共同参画部局が連携し、全職員を対象に、男女共同参画の視点からの避難所運営に関する動画研修を実施
- 防災会議の委員構成を変更することで、女性委員の割合を10%台→46%まで向上

取組のきっかけ 『女性参画や会議運営等でNo.1の防災会議にしたい！』

内閣府男女共同参画局のガイドラインが公表された直後に市議会でも取り上げられ、防災における男女共同参画の視点や女性の参画を当たり前にしようとする動きが堺市全体にあった。

危機管理室と男女共同参画部局(男女共同参画推進課・男女共同参画センター コクリコさかい)でガイドラインを勉強し、共通認識を深めた。



市職員研修と防災会議の両面から防災分野への女性の参画を促進するために、部局の垣根を越え、危機管理室と男女共同参画部局で連携して取り組むことに。

- 災害時には全庁的に災害対応に取り組む必要があることを踏まえ、男女共同参画の視点に立った防災の意識を高めるための職員研修を実施し、全職員に意識の浸透を図ることを目指そう！
- 防災会議の委員構成を抜本的に見直し、女性の参画を進め、多様な意見を取り入れることで、政令指定都市でNo.1の防災会議を目指そう！



1 防災研修を工夫して、全職員に男女共同参画の視点からの防災意識を浸透！

全職員対象の防災研修

1. 毎年1回、危機管理室が実施していた全職員対象の防災研修のテーマの1つに「男女共同参画の視点からの防災」を追加し、男女共同参画部局と連携して発信した

さらにいいこと！



危機管理室と男女共同参画部局で連携して取り組む姿を見せることで、防災は防災部局だけでやるものでなく、自分事として捉えられるようになった！



2. 災害時には、性別、年代、個々の事情が異なる中で、全員が災害対応に取り組むことになるため、全職員が男女共同参画の視点からの災害対応について学ぶ必要があることを伝えた

こんないいことがあった！



災害時、全庁的に男女共同参画の視点に立った災害対応に取り組む必要性を全職員の共通理解にできた！



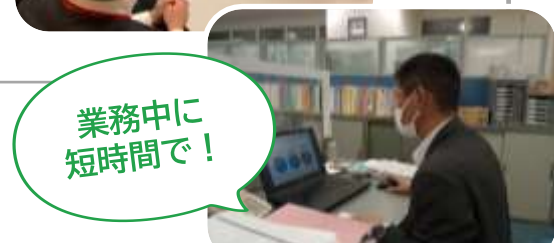
グループや個人で学習！

3. より多くの職員に防災を学んでもらうため、コロナウイルス感染症防止も踏まえて、動画教材を作成し、オンラインで研修を実施した

こんないいことがあった！



何度も繰り返し講義の録画を確認できるようになり、より多くの職員が手軽に学べるようになった！



業務中に短時間で！

市民対象の男女共同参画研修

4. 男女共同参画センターでは、市民を対象に、男女共同参画の視点で考える防災連続講座を実施している

こんないいことがあった！



市民が学ぶ場に職員も参加し、市民と一緒に学ぶ機会になっている！



2 防災会議の委員構成を見直し、女性比率10%台→46%までUP!

委員構成の見直し

- 職員の委員数を削減し、**障害者、高齢者、女性、LGBT、外国人等の支援団体**の登用数を増やした
 - 災害時に特に被害を受ける人たちに寄り添った活動をしている団体**を中心に参画を呼びかけた

こんないいことがあった!



- どのような団体に声をかけるかについては、**男女共同参画部局の現所管課長だけでなく、前所管課長にも相談する等して様々なつながりから情報提供**を受けた
 - 団体に依頼する際には、**団体に何度も出向き、代表者や事務局に直接会って説明**した

こんないいことがあった!



防災会議の工夫

- 既存の委員に対しても、**どのような趣旨で新たな委員に参画してもらうのかを丁寧に説明**し、理解を促した

こんないいことがあった!



- 書面会議**で意見が出しやすくなる工夫をすることで、新たに参画した委員を含めて多くの意見が出された
 - 提出された**全ての意見に対して回答**し、コミュニケーションを図った

こんないいことがあった!



構成団体を抜本的に変えたことで、**女性の委員の人数が増えた!**

単に女性比率を上げるだけでなく、**当事者視点の多様な意見を吸い上げられるようになった!**

委員構成	合計	男性	女性
(1) 指定地方行政機関の職員	5人	5人	0人
(2) 日通野の部局長	2人	2人	0人
(3) 大洲市の職員	4人	4人	0人
(4) 大阪府の副審員	1人	1人	0人
(5) 堺市職員	18人	16人	2人
(6) 教育委員会	1人	1人	0人
(7) 消防長・消防団長	2人	2人	0人
(8) 指定(地方)公共機関の職員	11人	9人	2人
(9) 自主防災組織・学識経験者	3人	1人	2人
(10) 市長が選定と認める者	9人	8人	1人
合計	56人	49人	7人

令和3年7月改選

合計	男性	女性
5人	5人	0人
2人	2人	0人
4人	4人	0人
1人	0人	1人
10人	5人	5人
1人	1人	0人
2人	2人	0人
12人	6人	6人
4人	1人	3人
19人	6人	13人
合計	32人	28人

女性委員比率
12.5%
↓
46.7%
+
多様な主体

候補団体に丁寧に説明することで、**委員になってもらった!**

多くの委員は、**防災に興味があり、問題意識を持っていた!**

安心して参加や発信ができる環境づくりを心がけることで、委員から多様な意見が出て、会議が活性化した!

委員から提出された全ての意見に丁寧に対応し、多様な視点から地域防災計画を見直すことができた!

 取組概要

- 人権・男女共生課と危機管理課が連携し、地域の女性の防災リーダーを養成するための「女性防災リーダー育成講座」を実施

取組のきっかけ 『地域で活躍する女性の防災リーダーを増やしたい！』

東日本大震災の被災地で、災害時に女性が直面する問題が表面化した。茨木市でも、自治会長などに男性が多い地域では、男女共同参画に関する防災の取組が浸透しにくい状況であることを懸念していた……

防災分野での女性の参画拡大を図るため、自主防災組織への女性の参画率を数値目標として茨木市男女共同参画計画に明記した。



男女共同参画課(現:人権・男女共生課)とその所管施設である男女共生センターローズWAMが、市民を対象とした「女性防災リーダー育成講座」を実施。

人権・男女共生課と危機管理課が連携し、市の会議などに参画する女性の防災リーダーを増やしていくことを目指そう！



1 防災以外の活動をしている女性を巻き込み、地域防災の人材を増やす！

女性防災リーダー育成事業

1. 人権・男女共生課が危機管理課に企画を持ち込み、連携しながら研修を行うこととした

こんな
いいことが
あった！



講座の企画・運営、講師との調整や広報、参加者の受付は男女共生センター、自主防災組織など防災関係者への周知は危機管理課など、役割分担をしながら効率的に研修の準備が進められる！

2. 受講者には、男女共生センターとつながりのあった地域の女性団体に加えて、危機管理課が平常時から関わりのある自主防災組織の女性を対象とし、計4回の連続講座を実施した

こんな
いいことが
あった！



地域で実際に活動している女性に対して、地域の防災活動への女性参画の重要性について理解を促せた！
地域の自主防災組織に地域の女性団体からの受講者を巻き込み、女性の参加者が増えた！

3. 連続講座では、できるだけ同じ方に参加してもらうようお願いした
参加する際には、地域の仲間を連れてきてもらうように声かけをしていた

こんな
いいことが
あった！



同じ地域の女性の受講者が増えたことで、女性同士の連携がしやすくなり、男性のリーダーたちに講座の内容を共有したり、研修会を企画・実施できた！

4. これまでは地域住民のみ対象としていたが、福祉部局や子育て部局など、災害時に要配慮者支援として関わる部署も、研修に参加してもらった

こんな
いいことが
あった！



防災を通じた部署の連携や、地域との関わりの場になるなど、多様な人々の連携のきっかけになっている

市内の連携も
促進！



✍️ 取組概要

- ジェンダー平等プロジェクトチームがテーマの1つとして「防災」を検討し、「ジェンダーと防災に係る専門委員」の設置を提案
- 実際に防災会議内に専門委員を設置し、性別や障害の有無等にかかわらず多様な人達を委員に任命



取組のきっかけ 『防災分野において多様な視点で議論したい！』

庁内横断的にジェンダー視点を取り入れた施策について検討する「ジェンダー平等プロジェクトチーム」が立ち上がり、主要テーマの1つに「防災」が位置づけられた。

阪神・淡路大震災の被害を経験して、災害の脅威を認識してきたが、これまで防災の分野においてジェンダー視点の議論を行っておらず、防災会議の委員も女性の割合が少なかった……



多様な視点を踏まえた災害対策を議論するため、市に対して防災会議内に「ジェンダーと防災に係る専門委員」を設置することを提案。

多様なメンバーから意見を出してもらい、出された意見は全て丁寧に扱うことを目指そう！



1 地域の関係者や障害者、高校生など、多様な方々が専門委員として参画！

ジェンダーと防災に係る専門委員

- 1. ジェンダー平等推進室と総合安全対策室で相談しながら、委員には**有識者**、市内で防災教育や避難所運営に関わる**小学校校長、保健師、まちづくり協議会の会長**、防災甲子園などに取り組む**高校生**を選任した
こんないいことがあった！
- 2. 過去の災害の経験を踏まえ、委員候補者と**性別・年齢・障害の有無等の多様な観点から災害対策を考えることの重要性を共有**した
- 3. 当事者(障害者)に関するテーマを検討した際は、**臨時委員として障害者にも参画**を依頼した

会議の進め方

- 2. 全4回の**会議形式による会議**に加え、模造紙と付箋を用いた**ワークショップ**を実施した
こんないいことがあった！
- 3. **全ての意見を書き留め**、出た意見を「すぐに取り組む業務」と「中長期的に取り組む業務」に整理した
これがコツ！

ジェンダーバランスを図るとともに、多様な人達が委員に参画することで、障害者等の要配慮者の防災対策も含めて幅広く話し合えた！

全ての委員が意見を出した！

職員が当事者の声を学ぶ機会にも！

ワークショップなどで若者から意見が多く出ること、他の参加者も意見を出そうという空気になり、**活発に議論**ができた！

1つの意見もつぶさず、全ての意見を大切にできた！






2 専門委員の提言をまとめ、計画の修正に反映！

提言書作成と計画修正

- 全4回の会議を通じて協議された多様な方々の防災活動への参画や、ジェンダー平等の視点に立った避難行動及び避難所運営、職員が安心して災害対応にあたれる環境の構築などの内容をとりまとめ、**提言書(案)**を作成した
 - 提言書(案)をもとに**総合安全対策室が計画の改定案を作成した**

こんな
いいことが
あった！



専門委員から提言された項目を**地域防災計画に反映し、計画全体を通して、ジェンダーや要配慮者に関する視点から見直す**ことができた！



多様な人々が
参加！



計画修正後の防災訓練

- 訓練の企画はこれまで**市の担当者のみ**が担っていたが、**企画の段階から地域の方と事前打合せ**を重ねた
 - 専門委員**(まちづくり協議会の会長)が活動する**地域を防災訓練の会場**とし、**委員の高校生とも一緒に企画を実施した**
 - 訓練では、参加した地域住民の性別に関わらず役割を分担し、受付や障害者の案内、避難名簿の回収、簡易ベッドの組立などに取り組んだ

こんな
いいことが
あった！



市と地域が連携した取組が増え、防災訓練に学生や障害当事者が参加するなど、**専門委員をきっかけとした横のつながり**ができた！

女性を含む**多様な地域住民**による**避難所運営への協力**が推進された！



条例で防災会議委員の男女比率の均衡を既定し、女性の参画を実現！

 取組概要

- 防災会議の8号委員に積極的に女性を登用することで、女性委員の割合40%以上を実現

取組のきっかけ 『防災会議への女性の参画を強化したい！』

「鳥取県男女共同参画推進条例」を制定し、附属機関の委員の構成は男女別の委員の数が均衡するよう努めるよう規定し、どちらかの性別が4割を切らないように運用している。

しかし、災害対策基本法第15条で防災会議委員の職指定(いわゆる「充て職」)があること、また、指定されている職(組織の長)には女性が少ないことから、防災会議においては目標を達成することが難しい状況だった……



職位等に関わらず委員に任命できる8号委員に女性の消防団員など関係団体の女性を選定することで、防災会議の女性比率40%以上を実現。

会議や研修の場での女性の発言から、男性だけでは気づきにくい視点を学び、男女共同参画や多様な視点から防災対策を進めていくことを目指そう！



1 防災会議の8号委員への女性の登用を増やし、女性の参画を実現！

男女共同参画推進条例

- 1 ・ 防災会議を含む県審議会等の構成員の割合の基準が定められている

こんな
いいことが
あった！



防災会議において、
女性を含む多様な
構成員の参画を
実現できる仕組み
になっている！



女性委員の選定

- 2 ・ 8号委員は職位等に関わらず、防災組織に関係する方や学識経験者の方など、地域で活躍する方を任命できるため、8号委員を中心に女性を選定するようにした

こんな
いいことが
あった！



委員全体の
40%以上が女性に
なった！

女性の視点を
含めて考える
マインドに！



- 3 ・ 防災に関する知識や意欲のある女性に委員として防災会議へ加わっていただくために、関係団体や関係課に聞きながら適任者の情報を収集している

こんな
いいことが
あった！



女性の消防団員や国際交流に取り組みされている方、旅館の女将、保育園の園長など、幅広い分野で活躍する女性を委員として選定できた！

コラム 防災備蓄品目に女性の視点を反映



鳥取県では、県と市町村で備蓄する品目を分担する「連携備蓄」の仕組みを設けています。市町村が女性の視点を踏まえた災害対応ができるよう、連携備蓄品目に女性の視点を反映させ、備蓄品の内容を充実させています。過去の災害では、市町村が開設した避難所で、開設当初からトイレに生理用品が設置されました！

✍️ 取組概要

- 危機管理課の女性職員が事務局となり、複数の課から有志で女性職員を集め、さかいで131(ぼうさい)おとめ隊を結成
- おとめ隊を活用し、市の避難所運営マニュアルを作成
- 令和4年に男性職員もメンバーとして参加できるよう、要綱を改正



取組のきっかけ 『女性職員の防災意識をより高めたい！』

当時、育休中だった危機管理課の女性職員が、東日本大震災での男性主導の避難所運営による困難や、固定的性別役割分担の問題、性被害の発生やそれらに対応する自治体職員のストレスなどを知り、危機感を抱いた。

女性職員が職場に復帰し、被災者であっても災害対応にあたる自治体職員、その中でも女性職員の災害時の困り事を少しでも軽減できるよう何かしたいと提案。



“女性の防災チームを作りたい”と上司に相談したところ、協力を得られる！
他部局の管理職(女性)2名も賛同し、おとめ隊を発足。

女性だけでなく男性職員にも、女性の視点に立った防災やおとめ隊の活動を知ってもらい、職員全員の防災意識向上、また市全体の防災意識の向上を目指そう！



1 かわいい・おしゃれ・楽しい！をキーワードに、多様なメンバーを募集！

メンバー募集のための 防災ランチミーティング

- 職員組合の女性部に声をかけ、**ランチミーティングを実施**した
- ミーティング参加者の中から、おとめ隊の活動に興味がありそうな**女性職員をメンバーに勧誘**した

こんな
いいことが
あった！



- 非常食を食べながら、「**かわいい**」「**おしゃれ**」な防災グッズを見せ、災害時の女性の困りごとなどを紹介！

こんな
いいことが
あった！



メンバーの人選

- 意思決定の場への参画を目指していたため、**上司に説明できる人**を候補とした
- 様々な部署**(専門職、技術職を含む)から、**年代や役職、業種が重ならないよう**声をかけ、**居住場所やライフスタイルも**様々な人を選出した

さらに
いいこと！



- 産休や部署異動による卒業の場合は、**後任に声をかけたり、メンバーの知り合いから推薦したり**して、毎年11名のメンバーを確保している

こんな
いいことが
あった！



「防災」というテーマで多くの女性が
集まることがわかり、チームの始動に
つなげられた！
**防災に関心がある職員を
発掘**できた！

おとめちゃん ▶



関心を持てるような工夫をした
ことで、「やらされる」防災から
「やってみようと思う」防災へ、
職員の意識が変化した！



メンバーの備え
のコツを紹介！

活動を通して、
**他の部署の
メンバーと関わる**
ことができ、そのつながりが
通常業務でも活かしている！

庁内の全職員を
おとめ隊経験者に！



毎年数人入れ替えながら11名のメンバーを確保した
ことで、**おとめ隊の経験者は退職者を含めて40名**となり、
職員の女性の視点に立った防災意識の向上に繋がっている！

2 市長の公認を得て、業務の一環として効率よく活動！

市長の公認団体

1. 組織の**最終目標を「市長に提案すること」として**地域防災計画等に反映できるよう、**組織の設置要綱を作成した**
- **構成メンバーの選定基準を体系化し、**トップに説明できるようにした

こんな
いいことが
あった！



2. 年度末には、**年間の活動を見える化し、**活動報告書として提出する

こんな
いいことが
あった！



活動の進め方

3. 通常業務との両立ができるように、**活動量が偏らないように配慮し、**担当を決めて**個人で進められるようにしている**
- 部署によって繁忙期が異なるため、**4月に年間の活動スケジュールを共有し、**それに合わせてメンバーも各自のスケジュールを調整する

こんな
いいことが
あった！



市長の公認の団体として、勤務時間内に継続して活動できるようになった！



メンバー全員から市長・副市長に年間活動、中長期の目標や、来年度の目標について説明することで、活動内容に対して深い理解が得られている！



個々人の活動を無理のないものにする
ことで、メンバーの入れ替えがあっても継続的に活動できる！

通常業務とも
両立できる！



男女共同参画と防災のそれぞれの研修で職員の意識が根付き、防災に女性が参画することが当たり前！

14

事例

✍️ 取組概要

- 庁内において男女共同参画を推進するため、男女共同参画に関する会議や研修を実施
- 入庁3年目の職員に対して防災士養成研修を実施
- 災害対応は性別に関わらず全員が行う業務であるという意識が全庁的に高まり、防災関係部署の女性職員の割合が庁内の男女比率に近づいている(約30%)

取組のきっかけ 『全ての職員が、災害対応に取り組めるようにしたい！』

高知市として、市全体の女性職員の割合が増えてきており、職員の男女比は半々だった。



庁内における男女共同参画の推進や、入庁3年目職員全員に対する防災士養成研修を実施してきたことで、全庁的に男女共同参画や防災に関する意識が高まった。

女性も防災分野に参画することが当たり前になり、防災部局にも他の部局と同様に女性職員が配属され、女性職員の割合が約30%に。

防災部局と男女共同参画部局が連携しながら、あらゆる部署の職員が性別に関わらず災害対応に取り組めることを目指そう！



1 それぞれの研修により、**全職員の男女共同参画と防災の意識を浸透!**

庁内における男女共同参画推進体制

- 1 • 市長を本部長に据え、**階層別に組織を設け**、それぞれで男女共同参画に関する会議を実施している
- **年2回、本部会会議**を実施し、計画や活動実績などの報告を行っている
- **若手・中堅の職員を集めてチームを作り**、研修を受講してもらい、**テーマに関する取組と成果発表**を行っている

こんないいことがあった!



男女共同参画の意識が浸透してきており、防災会議の充て職以外の幹事に**女性職員を推薦**するよう協力してもらえた!

全庁的に意識をアップデート!



防災士養成研修

- 2 • 入庁3年目の全職員に対し、**防災士養成研修を実施**している
- 防災士資格を取得した2年後には、**スキルアップのためのフォローアップ研修を実施**している

これをやったらうまくいった!



防災士の資格や防災の知識を持つ**女性職員**が増えてきた!

フォローアップ研修でスキルアップも!



2 あらゆる部署の職員が災害対応に取り組めるよう、事前に対策！

防災に関する周知

- 採用の段階から、研修等の機会を通じて、**あらゆる部署の職員が性別に関わらず災害対応に取り組むべきであることを伝えている**
 - いざというときに備え、**子どもなどの預け先を確保しておくよう周知している**

こんな
いいことが
あった！



全ての職員が災害対応に関わることへの意識が高まり、**防災部局に女性職員が配置されることが当たり前になった！**

全職員が災害時
にも働きやすい
ように改善！



負担の軽減

- 避難所の開設頻度によって特定の職員に負担が偏ることを防ぐため、**複数の避難所を十数人で担当**することで交代できるように改善を行った

これをやったら
うまかった！



職員から上がった**避難所運営等に関する意見**を防災部局が吸い上げ、解決に向けて丁寧に対応することで、**災害対応を行う職員の負担の軽減や不安の解消につながった！**

 取組概要

- 感染症対策を盛り込んだ避難所運営マニュアルを作成する際に、「性別に配慮し、男女2人体制で職員を配置する」との文言を追加
- 防災部署に配置された女性職員の意見を取り入れ、多様な視点を反映させた備蓄物資へと変化

取組のきっかけ 『災害対応に女性が参画することを当たり前にしたい！』

以前から、部署によって男女の配置に差があることは暗黙の了解で、防災部署には女性職員が一人もいなかった……



防災部署に初めて女性職員が配置された。これまで男性職員しかいなかった部署へ異動した女性職員の不安を解消するために、部署内でバックアップ。

コロナウイルス感染症を機に、感染症対策を盛り込んだ避難所運営マニュアルを作成したタイミングで、健康管理に関する専門知識を持つ保健師が避難所の運営に参画(保健師の9割が女性)。

避難所運営や備蓄などに関する意見など、女性の視点を取り入れた防災・災害対応を目指そう！



1 避難者の体調管理をきっかけに、避難所への女性職員配置を当たり前！

避難所運営マニュアルの修正

1. 西日本豪雨(平成30年7月豪雨)時に、人手不足から男性職員だけでは避難所運営を担いきれず、**女性職員も避難所への誘導等の災害対応に加わった**

こんないいことがあった！



これまでは男性職員のみで取り組んできた**災害対応、避難所運営に女性職員が参画する**きっかけになった！



2. コロナウイルス感染症防止対策に伴い、避難者の体調を管理するため、**避難所に保健師を派遣**するようマニュアルを改訂した
 - マニュアル改訂の際に、「**性別に配慮して、男女2人体制で職員を配置する**」といった文言を追加した

こんないいことがあった！



女性職員も災害対応に取り組むことが制度化されたことで、**性別問わず対応することが当たり前**であるという意識に変化した



男性職員の対応の仕方にも変化が！

実際の避難所運営

3. 避難所に女性職員が配置され、避難者に声掛けをして相談しやすくなるように気を配り、**避難者が過ごしやすい避難所の環境づくり**につながった

こんないいことがあった！



より避難者に**寄り添った対応**ができるようになった！
避難者から**お礼の手紙**をいただくことが増えた！



2 女性職員の意見を取り入れ、多様な人々のニーズに合わせた物資を備蓄！

物資の備蓄

1 • 1年に1度、備蓄物資を購入することになっているが、防災部署に**女性職員が配置されたことで、備蓄物資の数や種類が変化**した

こんないいことがあった！

紙おむつ、生理用品、携帯用トイレなど、ノンアルコールのおしりふきなど、これまで**男性職員だけでは気づかなかった物資が備蓄**されるようになった！

女性や子ども、高齢者などの多様なニーズに合わせて備蓄！

2 • 予算等の都合上、一気に物資を変えることは難しいが、**2~3年の長期的な視点で**、多様な人々のニーズに合わせた物資をそろえている

こんないいことがあった！

• **全ての物資がそろう前に大規模災害が発生した場合に備え**、協定を結んでいる事業者から購入できるようにしている

備えやすい物資から順に揃えていくなど、**無理をせず**にできる**ところから取り組む**ことが、取組の前進につながる！



気軽に意見を言いやすい！

3 • 職員が**自分の家族(子どもや高齢者)をイメージ**し、災害時に必要なものを考えて提案している

これがコツ！

• 部署内では、**どんな職員の意見も、どんなに小さなことでも「やってみよう」と聞き入れる**ようにしている

誰でも意見を言いやすく、活動しやすい雰囲気づくりを大切にしている！



会議の様子 ▶

✍️ 取組概要

- 県内全市町の担当職員を対象に、内閣府のガイドラインと実践的学習プログラムを活用した研修を実施
- 男女共同参画担当・防災担当・福祉保健担当の連名で、各市町に通知

取組のきっかけ 『県内の全ての市町が自ら取り組めるようにしたい！』

これまでに行った研修から、男女共同参画に防災の視点を掛け合わせることで参加者に伝わりやすく、男女共同参画をより理解しやすくなることを感じていた。

防災×男女共同参画

内閣府男女共同参画局のガイドラインが公表され、男女共同参画の視点からの防災が重要な取組であると再認識。



既存の研修のテーマを「男女共同参画の視点からの防災」にし、全ての市町の男女共同参画担当・防災担当・福祉保健担当を対象に研修を実施。

県内の全ての市町が、自ら取り組り組むためのきっかけづくりを目指そう！



1 研修の通知と実施方法を工夫し、全ての市町の研修参加を実現！

研修の案内の通知

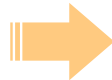
- 市町に研修の案内を出す際は、**県からの「通知」として**
- 関連課室の連名**とし、男女共同参画担当と防災担当、福祉保健担当から、市町のそれぞれの関係部署へ発出した

こんな
いいことが
あった！



- 研修日程は、市町の職員が参加しやすいよう、同じ内容の研修を**3日間設定し、早めに通知した**

こんな
いいことが
あった！



研修実施の工夫

- オンラインで実施し、全ての市町にサテライト会場を設定した**

さらに
いいこと！



- ガイドラインや資料集の配布や、DV防止啓発ポスター等の見本として各1セット配布**
- 翌年からはそれぞれの**市町での対応を呼びかけた**

これが
コツ！



市町の担当課が研修の重要性を認識し、**全ての市町の防災担当と男女共同参画担当が研修に参加できた！**

全ての市町の
担当課が研修に
参加！



受講できる日程の選択肢が増え、ゆとりをもって日程の連絡をすることで、参加しやすくなった！

県民も参加できる
ようになった！



自宅などでも受講でき、研修に**参加しやすくなった！**

見本を提供することで、行動に移せるようにした！

市町から活用方法を報告してもらいフォローアップを行った！



2 市町、県それぞれの男女共同参画担当と防災担当の連携を促進！

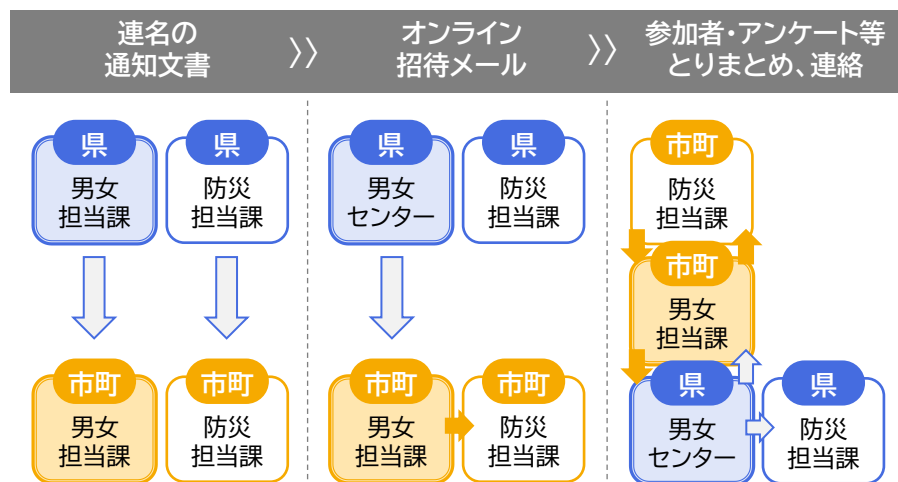
市町内連携のきっかけづくり

- 研修の通知は各課へ、招待メールは男女共同参画担当へ送信している
 - 通知文書は3課室連名とし、県各課室⇒市町各課に通知
 - 招待メールは、県の男女共同参画担当⇒市町の男女共同参画担当を通して、各防災担当・福祉保健担当へ
 - 市町の男女共同参画担当に参加者やアンケートのとりまとめ、連絡をしてもらう

こんないいことがあった！



男女共同参画担当に参加やフィードバックのとりまとめをしてもらうことで、市町内の男女共同参画担当と防災担当の連携のきっかけに！



県庁内での部局間連携

- 研修では、防災担当、福祉保健担当、男女共同参画担当のそれぞれから、男女共同参画の視点からの防災について説明した
 - 防災担当から、県内の過去の災害状況に関する説明(令和2年度)
 - 福祉保健担当から、災害時の物資備蓄に関する説明(令和3年度)
 - 男女共同参画担当から、内閣府男女共同参画局の実践的学習プログラムを実施(令和3年度)

こんないいことがあった！



研修に参加した市町の防災担当や福祉保健担当から、男女共同参画担当との連携の重要性に気づいたとの意見があった！

県内部でも連携の重要性を認識！





取組概要

- 庁内の女性職員を集め、部局横断的なチームを結成して防災に関するテーマを検討
- 職員の異動やコロナの影響で活動が止まりながらも、チームを再始動

取組のきっかけ 『男性中心の防災を女性の視点から見直したい！』

東日本大震災を機に国の防災基本計画が修正され、避難所運営等に女性の参画を推進することなどが盛り込まれた。当時、男性が中心となって担ってきた防災業務を女性の視点から見直す必要があるのではないかと話題に上った。同じタイミングで、消防局から総務部市民防災室(現:防災危機管理課)に女性の消防士1名が異動してきた。



女性の視点を取り入れた防災対策を促進するため、那覇市防災推進会議幹事会で承認を受け、女性職員で組織する「防災対策検討女性チーム」が設置された。

総務部市民防災室(現:防災危機管理課)が事務局となり、東日本大震災時に被災地へ派遣された女性職員を含む関係各課の職員を指名し、市長から任命を受け活動開始。

部署異動やコロナウイルス感染症の影響による活動休止を経て、令和4年度に再始動。ジェンダー視点を取り入れた避難所運営マニュアルの改訂を目指そう！

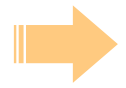


1 部局横断的な意見交換を通して、市長に提言する仕組みを構築！

女性チームの発足

1. 総務部市民防災室(現:防災危機管理課)が事務局となり、**関係各課の所属長に女性職員を指名**してもらい、市長が任命した
2. **被災地へ派遣された3人の女性職員を中心**として、12名でチームを結成した

こんないいことがあった！

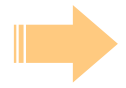


避難所運営に関わる業務の担当職員が選定され、**多種多様な部局から職員を集めることができた！**



2. 「避難所運営」に焦点を置き、**3つのチームに分かれて、チームごとにテーマを設定**して検討した

こんないいことがあった！

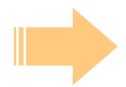


被災地派遣の経験をもとに、避難所運営に関する**課題を掘り下げ**、計画・マニュアルに男女共同参画の視点を反映できた！

意思決定の場への提言

3. チームごとに意見交換しながら検討結果をまとめ、**防災対策推進会議へ報告**した

これをやったらうまくいった！



防災を身近に感じ、考える機会になるとともに、**意思決定の場に提言を行う仕組みが作れた！**



4. **市長に直接、提言内容を説明、意見交換**を行った

こんないいことがあった！



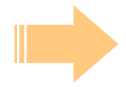
生理用品の備蓄や各課へ防災推進員を配置するなど、**具体的な取組につながった！**

2 周囲の理解を得ながら、活動を休止しても再始動！

活動休止しても再始動

1. 活動が**広報紙に掲載**される等、チームの活動内容や良い影響が広く知られ、理解してもらっている

こんないいことがあった！



2. 職員の異動やメンバー入れ替えによって**何度も活動を休止しながらも、続けていける方法を模索しながら**活動している

これがコツ！



令和4年度に再始動するチームの取組

3. 各部署から指名してもらったメンバーに加え、**新メンバーとして、職員以外に消防団員2名(市民)**を迎えた

これがコツ！



4. **総合防災訓練**に女性チームのメンバーも参加し、実際に**避難所の開設状況を確認して意見**を出した
今後、出された**意見を集約し、避難所運営マニュアルの改訂**に活かす

こんないいことがあった！



各部署に活動を評価されたことが、再始動に向けた後押しになった！

各部署がチームの活動を応援！



本来業務とはまた違った活動のため、新しい知識を持ち帰り、**楽しみながら話し合える雰囲気づくり**を心がけている！

職員だけでなく、避難当事者となる**市民の意見を直接取り入れられるような体制にした！**

テント内の様子が分かりづらいことや、キッズスペースの効果など、**実際に避難所運営をやってみないと分からない部分に気づき**、ジェンダー視点を含む様々な意見が集まった！